

【原 著】

「2014年度教師力養成講座」の概要
—実践的指導力を有する教師の育成のために—

武藤 幹夫 小川 潔 小林 清太郎

Outline of "A Training Course to Cultivate the Abilities Required for Teachers - Academic year 2014"
To Cultivate the Practical Leadership Required for Teachers

Mikio BUTO, Kiyoshi OGAWA, Seitaro KOBAYASHI

2015

岡山大学教師教育開発センター紀要 第5号 別冊

Reprinted from Bulletin of Center for Teacher Education
and Development, Okayama University, Vol.5, March 2015

原 著

「2014年度教師力養成講座」の概要

—実践的指導力を有する教師の育成のために—

武藤 幹夫*¹ 小川 潔*¹ 小林 清太郎*¹

本年度の「教師力養成講座」は、7回の開催を計画した。8月末までに4回、12～2月に3回を実施する。本講座は、学校現場で今日的な課題に対して実践されている優れた取り組みを学生に伝えることで、学校現場へ出ることへの不安を取り除き教師という仕事への意欲を高めるとともに、学生の実践的指導力の向上を図ることをねらいとしている。平成21年に開始し、参加状況や受講者の意見を参考にしてテーマ設定や講師選定などに工夫を加えながら、今年で6年目を迎えている。本年度実施している教師力養成講座の概要を報告し、併せて「教師力養成講座」の運営上の課題と今後の展開についてもふれる。

キーワード：現場で実践されている優れた取り組み、実践的指導力の向上、今後の展開

※1 岡山大学教師教育開発センター

I はじめに

教師の大量退職の時代を迎え、全国で3万人を超える新規採用者のうち、3人に1人が新規学卒者となっている。全国で1万人以上の教師が、大学を卒業して4月から教壇に立ち、初めて1年を通して児童生徒を指導することになる。

教員採用試験に合格し教師として教壇に立つことになった学生には、めざしてきた仕事に就ける喜びとともに、指導に関わるいろいろな不安がある。実際に、教職相談室に来る学生に話を聞いてみると、授業、学級経営、生徒指導、保護者との関係など教師の仕事全般にわたって、不安をもっていることがわかる。初めて経験することに不安をもつのは当然のことであろう。それに加えて、マスコミ等を通して目にする学校や教師に関する情報は、不登校やいじめ、校内暴力、保護者対応の難しさ、教員の忙しさなど、課題となる負の部分に焦点を当てたものがほとんどである。そのことが、学生たちの不安を増幅している側面もある。さらに、道徳の教科化、小学校における英語教育などの新たな動きについても、学校での勤務経験のない学生には、具体的な改善点や実施に伴う課題を理解するのが難しいであろう。こうしたことも、学生が抱く不安の背景にあると思われる。

一方で全国には、その学校の現状に合わせた指導を進め、大きな成果を上げている実践はたくさんある。岡山県下の学校においても、同様であり、その中核を

担っている優れた教師もたくさんおられる。しかし、そうした取り組みが学生に情報として伝わる機会は、きわめて少ないのが現状である。意欲を持った学生は、積極的にボランティア活動として、教育現場や子どもを主体とした活動の場に出向き、よりよい教師になるための努力を重ねている。そこで直接子どもたちと接して、感じ取り学ぶことは貴重な経験である。ただ、そこで経験することは限定的であり、日々行われている教育を支えている理念や具体的な指導の方針をまとまった形で学ぶことはあまりない。

そこで、教育現場で優れた実践を進めている教師や教育委員会職員に講師を依頼し、学校や地域で行われている取り組みの概要やその基盤となっている教育の理念や指導の在り方を、学生に直接話していただく場として「教師力養成講座」を開催している。子どもや教師の具体的な取り組みについて直接聞くことで、学生は教師という仕事の魅力とやり甲斐を知るとともに、持っていた不安を和らげることができる。さらに、子どもが生き生きと学ぶ姿や教師が指導を通して成長していく姿を知ることによって、学生が自分の「育てたい子ども像」や「求める教師像」を描いていく助けにもなると考えている。

II 2014年度の実践

1 テーマの設定

テーマについては、次の二つの観点をもとに設定している。

A：教師を目指す学生が不安に思っている教育課題とそれに対する学校現場での取り組み

B：学生に学んでおいて欲しい教育の動き

教師力養成講座に参加した学生からは毎回アンケートを通して、講座に対する要望をきいている。参加学生対象のアンケート「取り上げて欲しいテーマ」の記述には、多岐にわたるテーマが記述されている。

<観点Aに関わるもの>

- ・学級経営・運営，子どもとの信頼関係づくり
- ・授業づくり，グループワーク，話術
- ・生徒指導，いじめ，不登校，問題行動
- ・教師同士の人間関係，教師間の連携
- ・地域や家庭との連携，保護者への対応
- ・教師が直面している課題，教師の資質
- ・学校間の連携の在り方
- ・部活動の指導
- ・特別支援教育の進め方
- ・校務分掌，教師の一日，学校における研修 等

<観点Bに関わるもの>

- ・「生きる力」を育む指導
- ・インクルーシブ教育
- ・国際理解教育，外国語活動
- ・キャリア教育
- ・道徳教育，人権教育
- ・体験活動の充実
- ・グローバル化社会への対応 等

本年度のテーマについては、こうした学生の思いを反映させながら、これから求められる教師の力を描いて、講師の選定と併せて検討し設定した。

2 講師の選定

講師については、指導や対応について優れた実践を進めておられる人材を、学校や教育委員会事務局で勤務する校長、教諭、指導主事等の中から選んで依頼している。このことは、岡山県教育委員会、岡山市教育委員会の協力を得て進めている。本年度は、それに加えて本学教員推薦により、岡山県以外で勤務される先生にも講師を依頼し、小学校での優れた実践を紹介していただいた。

3 開催・運営

基本的な運営スケジュールは、昨年度までのものを引き継いでいる。

<基本的な運営スケジュール>

- | | |
|--------------------------|-----|
| (1) 開会（挨拶・講師紹介） | 10分 |
| (2) 大学教員によるテーマの意義についての講話 | 15分 |
| (3) 講師による基調提案 | 40分 |
| (4) グループ討議・協同活動 | 20分 |
| (5) 討議・活動内容の発表と共有 | 15分 |
| (6) 講師によるまとめ・教職相談室によるまとめ | 25分 |
| (7) 参加者各自のまとめ | 5分 |

○(2)の大学教員による講話は、学生がその意義を十分に理解している場合や(4)のまとめで補足できる場合には割愛している。本年度は、1～5回の講座のうち4回では設定しなかった。

○(3)の基調提案では、テーマについての基本的な考え方、学校での取り組みの概要、成果と課題などについての講話を行っている。本年度は、資料を基にした説明だけでなく、授業の様子のビデオ視聴や教育機器の操作なども組み込んでいただいた。授業中の子どもの雰囲気・反応や先生の指導の様子、指導の中での操作のポイントなどを学生に実感として伝えることができた。

○(4)の学生のグループ活動については、参加者アンケートの中に、「有意義な時間である」「もっと時間をとってほしい」などの要望が多く見られた。そこで、基調提案を聞いて学生同士が意見交換をしたり協力して活動したりする場をできるだけ充実させる方向で進めている。本年度は、基調提案をもとに、「意見交換・協議をする」「具体的な指導案や指導方法を検討する」などの形で30分ほどの時間を設定した。

○(5)の討論の発表と共有の時間では、班の数によって発表時間を制限することで、要領よく伝える発表を意識できるようにしている。

○(6)の講師によるまとめは、参加者の発表をもとに柔軟に設定している。本年度は、発表内容への評価、発表に対する補足、発表の中に含まれる質問への回答などが行われた。

4 2014年度の「教師力養成講座」

本年度実施した講座の概要は、表1の通りである。本年度の講座のテーマについては、受講者のアンケートを参考にして「教師を目指す学生が不安に思っている教育課題とそれに対する学校現場での取り組み」として、特別支援教育（第1回）、生徒指導（第2回）、

学校現場での教師の課題（第4回、第7回）、授業づくり（第6回）を設定した。また、「学生に学んでおいて欲しい教育の動き」として、キャリア教育（第2回）、情報教育（第5回）を設定した。参考までに、これまでの本講座の実施記録も表2に示しておく。

表1 2014年度の「教師力養成講座」

実施日	回	テ ー マ	講 師
2014年 5月 21日	第1回	「どの子どもも参加でき、どの子どももわかる授業」	赤磐市立小学校 校長
2014年 6月 25日	第2回	「小中高等学校におけるキャリア教育」	岡山県立高等学校 校長
2014年 7月 9日	第3回	「子どもの何を褒め、何を叱らなければならないのか」	岡山市立小学校 教諭
2014年 8月 6日	第4回	「多くの教師は、教師になって揺らく」	大津市立小学校 教諭
2014年 12月 17日	第5回	「ICTを活用した授業づくり」	岡山市立小学校 校長
2015年 1月 14日	第6回	「子どもたちにとって魅力的な授業」をどのように創るか（予定）	岡山大学教育学部附属小学校 教諭
2015年 2月 18日	第7回	「今、学校現場で、教師に何が求められているのか」（予定）	岡山市立小学校 教諭

表2 昨年までに実施した「教師力養成講座」

実施日	回	テ ー マ	講 師
2013年 5月 22日	第1回	「体罰」を考える	倉敷市教育委員会
2013年 6月 26日	第2回	「いじめ・不登校」を考える 「原因や背景」	岡山市立中学校 教諭
2013年 7月 10日	第3回	「いじめ・不登校」を考える 「対応と未然防止」	岡山市立中学校 教諭
2013年 8月 6日	第4回	「保護者のクレーム」を考える	岡山市教育委員会
2013年 12月 4日	第5回	「子どもにとって魅力のある学級」をどう創るか	赤磐市立小学校指導 教諭
2013年 12月 11日	第6回	「子どもにとって魅力のある授業」をどう創るか	岡山大学教育学部附属小学校 教諭
2014年 1月 15日	第7回	「子どもの問題行動」にどう対応したらよいか	岡山市教育委員会

実施日	回	テ ー マ	講 師
2012年 5月 30日	第1回	「子どもの特性を理解した生徒指導」	岡山市立中学校 教頭
2012年 6月 13日	第2回	「NIEの取り組み」	岡山市立小学校 教諭
2012年 10月 31日	第3回	「外国語活動」	岡山市立小学校 教諭
2012年 11月 28日	第4回	「学級づくり」	岡山市立中学校 教諭
2013年 1月 16日	第5回	「学級びらき」	岡山市立小学校 校長

実施日	回	テ ー マ	講 師
2011年 5月 18日	第1回	「授業で学校を変える」	岡山市立中学校 校長
2011年 6月 29日	第2回	「伝統文化と武道」	岡山市立中学校 教諭
2011年 7月 13日	第3回	「キャリア教育」	岡山県立高等学校 教諭
2011年 10月 5日	第4回	「国語教育における協同学習」	岡山市立中学校 教諭
2011年 11月 2日	第5回	「保護者・地域との連携」	岡山市立小学校 校長
2012年 1月 18日	第6回	「教師力をつけよう」	岡山市立中学校 校長

実施日	回	テ ー マ	講 師
2010年 5月 19日	第1回	「学校における食育推進」	岡山市立小学校 校長
2010年 6月 16日	第2回	「伝え合う力の育成」	岡山市立小学校 校長
2010年 7月 28日	第3回	「情報教育」	岡山市立中学校 校長
2010年 10月 27日	第4回	「外国語教育」	岡山市立中学校 教諭
2010年 12月 1日	第5回	「理数教育の充実」	岡山市立小学校 校長
2011年 1月 12日	第6回	「生徒指導」	教師教育開発センター 准教授

実施日	回	テ ー マ	講 師
2009年 5月 27日	第1回	「子どもたちの生活とケータイの問題」	岡山市立中学校 校長
2009年 6月 24日	第2回	「発達障害など課題を抱えた子どもとどうかかわるか」	岡山市立小学校 校長
2009年 7月 8日	第3回	「いじめ・不登校の問題をどう考えるか」	岡山市立中学校 校長
2009年 10月 14日	第4回	「学校における「評価」について」	岡山市立中学校 校長
2009年 11月 25日	第5回	「道徳教育について」	岡山市立小学校 校長
2010年 1月 27日	第6回	「学校力の向上について」	岡山市立中学校 校長

Ⅲ 学生の満足度と感想

講座の開催にあたっては、次のようなアンケート調査を実施している。アンケートを、「学生の満足度を上げる」「学生の参加者を増やす」という点から考

察し、その結果を運営の改善に生かしている。

アンケートは、5段階の評価を基本にしたものと自由記述によるものである。

(アンケート項目資料)

- 受講者のこと 「性別」「学年」「所属学部・学科」「受験予定の学校種」
 - 今回の講座
 - ①基調提案（最初のお話）について、どのように感じましたか。
 - ②グループでの話し合いは、活発に行われましたか。
 - ③グループでの話し合い中、あなた自身の発表はどうか。
 - ④グループでの話し合いの時間の長さはどうか。
 - ⑤まとめ（最後のお話）について、どのように感じましたか。
 - ⑥今回の講座で考えたことは、あなたが教師を目指す上で役立つと思いますか。
 - ⑦次回の講座にも参加したいと思いますか。
 - 本講座
 - ・ 今回の講座の感想や質問など、自由に書いてください。
 - ・ 次回の講座で取り上げてほしいテーマを書いてください。
 - ・ この講座のことを、何で知りましたか。
- ⇒「掲示板」「教職相談室で」「センターHPで」「岡大教職ナビの情報で」「友人から」「その他」

1 学生の満足度

本年度の開催にあたっては、学生の希望するテーマを生かすこと、参加者の意見交換のために時間を確保することなどに配慮した。

学生の講座に対する満足度は、表3の通りである。全体として、参加した学生の満足度は高いと言える。特に「基調提案」「まとめ」「教師を目指す上で役立つ」については、4.83～4.93と高い満足度が見られる。一方、受講者同士の意見交換への満足度は、「受講者自身の発言」4.08と「活発な話し合い」4.

5.1とやや低くなっている。テーマに合わせてグループ協議の進め方をさらに工夫していきたい。

受講した学生の満足度が次回講座への参加意欲の高さに確実につながっていると考えられる。学生の教職に対する意欲を高めることは、本講座の出発点である。学生の思いを十分に捉え講座の運営に生かしていきたい。

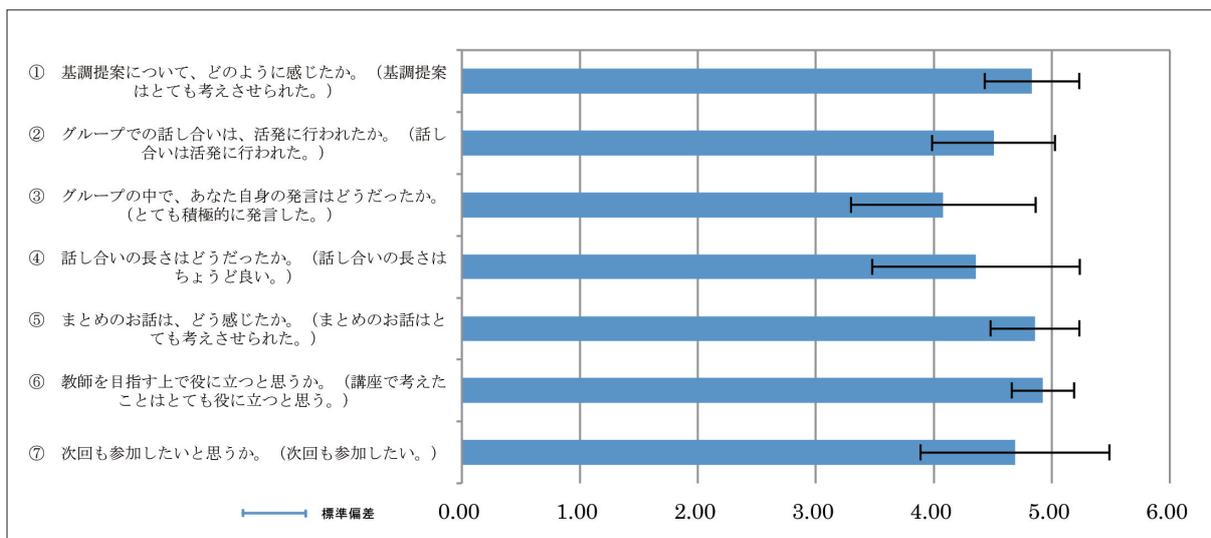


図2 2014年度を受講生満足度 平均値・標準偏差

表3 「教師力養成講座」参加者アンケートの結果

	2014年度					2014 合計	2013 合計	2012 合計	2011 合計	2010 合計	2009 合計	
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)							
参加人数	36	20	92	34	32	214	392	118	179	282	274	
①基調提案	平均	4.86	4.89	4.93	4.88	4.47	4.83	4.89	4.77	4.95	4.85	4.86
	SD	0.36	0.32	0.26	0.42	0.57	0.40	0.37	0.54	0.21	0.42	0.41
②話し合い	平均	4.51	4.47	4.53	4.63	4.34	4.51	4.47	4.25	4.40	4.47	4.46
	SD	0.56	0.51	0.50	0.49	0.55	0.52	0.64	0.39	0.65	0.67	0.57
③発言	平均	4.00	4.11	4.08	4.25	3.97	4.08	4.10	3.94	3.92	4.11	4.01
	SD	0.80	0.99	0.77	0.72	0.74	0.78	0.76	0.64	0.78	0.74	0.78
④長さ	平均	4.57	4.05	4.46	4.44	3.97	4.36	4.34	4.25	4.07	4.30	4.16
	SD	0.81	0.78	0.86	0.88	0.93	0.88	0.93	1.11	1.10	0.88	0.88
⑤まとめ	平均	4.88	4.79	4.98	4.90	4.52	4.86	4.89	4.92	4.91	4.89	4.80
	SD	0.33	0.42	0.15	0.40	0.57	0.38	0.36	0.08	0.35	0.35	0.51
⑥役立つ	平均	4.94	4.95	4.99	4.94	4.72	4.93	4.96	4.92	4.97	4.93	4.95
	SD	0.24	0.23	0.11	0.25	0.46	0.26	0.21	0.08	0.17	0.25	0.21
⑦次回講座	平均	4.74	4.72	4.69	4.72	4.59	4.69	4.74	4.68	4.84	4.89	4.83
	SD	0.75	0.96	0.81	0.77	0.80	0.80	0.66	0.66	0.63	0.48	0.61

2 講座受講生のアンケート自由記述

受講生アンケートの自由記述欄に記載された感想や意見を、「講座内容への共感や発見」「講座の運営や雰囲気」「自分が教壇に立つことへの意欲や思い」に分けて整理し、一部を紹介しておく。なお、①②③④⑤は本年度の何回目の講座かを示している。また、記載に際しては、誤字等について最小限の校正をして載せている。

【内容への共感や発見】

- ①現場の実態や、現場の先生方の児童への働きかけ、大切にしていることなど、知ることができ、とても勉強になりました。
- ①特別支援教育というと、その支援が必要な子だけにと考えてしまうが、「みんなで学ぶ」ことはせっかくみんながいる学校で学べるのだからとても大切だと思いました。
- ①「どの子にも」というのが大きなテーマだと思いました。支援が必要な子だけでなく、できる子だけでなく、みんなが達成感をもち、成長していけるように、教員としていろんな手だてを考えなければいけないなと思いました。〇〇先生、ありがとうございました。
- ②今まで聞いたことはある言葉「キャリア教育」について、理解とともに、実際に指導案作成など実践的なこともでき、非常によい体験ができたと思います。参加してよかったです。
- ②キャリア教育は、子どもたちの将来に大きく関わ

る。その充実で学習意欲を高めることができることも今回分かったので、教科との連携の中で子どもたちが考えられる機会を多く作っていきたい。

- ②これまで、キャリア教育を自分自身が受けてきたかどうかは実感がわきませんでした。将来を考えたときに、どうしても受験、進学のことのほうがとても強かったです。今回、お話を聴いて、小学校でキャリア教育を生かすにはどうすればよいのか、とても考えさせられました。4つの能力で身につけさせたいものを明確にしておく、授業づくりもしやすいと思いました。
- ③ほめること、叱ることは自分の中でも大変難しい課題でした。どんなときにほめるとよいのか、叱るとよいのかかわからないのです。今回の講座を通して、まずは自分の軸や育てたい子どもの姿をイメージすることが大事だと学びました。
- ③ほめる、叱ることに限っては教師になった際、確実に直面する問題なので、今回改めて考えることができよかったです。このような機会があるかないかでは全く違うと思うので、とても有意義な時間を過ごすことができましたと思います。
- ③ほめること、しかるることについて、実際に自分が小学校の時に経験されたこと、また教師になってから経験されたことを例に、分かりやすく講義されて、とてもためになりました。またほめることとしかることを同時にできるといる話がとても印象的で、自分も実践したいと思いました。

- ③叱ることは子どもに嫌われたらどうしようと不安になってなかなかできないが、子どもの将来を考えると嫌われると不安になっている場合じゃないと思った。
- ④子どもたちの自主性にとっても驚かされました。高校教育においても自主性を高めるために、どのような取り組みが必要なのかを考えるきっかけになりました。
- ④ビデオや先生のお話から、子どもがそのよさを存分に出し頑張れるようなクラス、みんなで学び合おうとするクラス、みんながいていいなと思えるようなクラスをつくっておられて、私も将来そんな雰囲気がつくれたらなと思いました。
- ④とても勉強になった。テクニックというより「教師」そのものをみつめるきっかけになった。
- ⑤ICTを活用することによって、生徒によりわかりやすい説明ができることがわかった。説明する時間を短くして生徒の学びを長くとることで、より効果的な授業がつけれると思った。
- ⑤ICT自体は、私自身が好きなものであったが、実際にどう使うのかということについてはよくわかっていませんでした。でも、今回のことで、ICTをどううまく使えばよいか、指導すべきことは何なのかということをふまえた使い方を使えばよいのだということがよくわかりました。本当に参考になりました。
- ⑤ICTについては、ほとんど触れたことがなかったので、今回実際に実物提示装置を使ってみて、便利だなと思いました。絵を拡大コピーして黒板に貼るという手間が省けて、効率がいいなと思いました。

【講座の運営・雰囲気】

- ①質疑応答の時間があつたら嬉しかったです。
- ①先生のお話が非常にためになり、実際に実践していきたいと思った。またグループ同士の話し合いもいろいろな人の意見を聞くことができ新しい視点に気がつくことができた。
- ②とても勉強になることばかりだった。自分の課題について考える機会、そしてその対応策を考える機会をグループワークで頂け、非常に有意義な活動となった。今回は授業中心だったが、ぜひ保護者との関わりについても聞いてみたかった。
- ②初めてでしたが、とても有意義な時間になりました。ただ、事前に参加者が分かっているので、上回生などをふりわけてもらえると発言がしやすくなると思います。今回は他の方がすべて院2の方で委縮してしまいました。しかしながら、すごく勉強になりました。
- ③積極的に飛び交う意見をともに共有でき、充実した時間になりました。
- ③飛びこみでしかも初めての参加だったので、グループも校種はバラバラだった。でもそれが逆によかった。いろんな立場からモノを考えるきっかけになる。インターンやボランティア先の先生のほめ方、しかり方、もう一度しっかりみてみようと思った。
- ③1年生として参加した人がとても少なかったので、最初は不安でしたが、先輩方にフォローしていただき、とても勉強になる話し合いができた。教員の魅力がとても感じられ、自分の理想の先生像が少しかたまってきたように思う。
- ④教師の仕事で避けては通れない悩みなどを聞けてよかったです。実際のクラスのビデオのおかげでリアルな様子が伝わってきました。
- ⑤見ず知らずの方とのグループワークは、自分を試すよい機会となった。
- ⑤みんなで学ぼうって雰囲気でした。ふんわりしていました。
- ⑤自分で考える時間、グループで考える時間があって他の人の考えを知ることができて新鮮だった。ICTを使って授業をすることに抵抗があつたけど、気軽に、便利なアイテムであることがよく分かってよかつた。

【教壇へ立つことへの意欲や思い】

- ①特別支援教育と聞くと、特別なニーズが必要な子どもだけにスポットをあてるものだと思っていた。しかし、どの子にもわかる授業をとということで、全員の子どもにとって必要なものであることがわかつた。教師になつた際に大いに生かすことのできる講座でした。
- ①特別支援教育の考え方は、どの子にとっても必要であり大切なことだということが改めてわかりました。具体的な取り組みも紹介していただき、教師になつたときに活かしたいと思います。
- ①特別支援教育が障害のある子だけでなく、通常学級にいる子どもたちのためにあるものだということが分かつてよかつたです。特別支援教育の考え方を通常学級でも取り入れられる教師になりたいです。
- ②キャリア教育は小・中の時から先生が熱心に取り組んでくださったので、思い入れが強く、ふり返

- りながら、自分ならどんな授業をしたいだろうか
と考える機会をもてました。
- ②高校教諭を志望しているが、可能ならばキャリア
教育を校務分掌で担当したいと思った。
- ③何をしかり、何をほめるのかということについて、
端的かつ具体的にお話をして下さったので、分か
りやすく、お話にひきこまれました。〇〇先生の
ように、自分の中にしっかりと理念をもって、教
師を目指していきたいです。
- ③褒めることと叱ることの両方が、子どもを成長さ
せることができ、その間に区切りはないという言
葉が印象的です。子どものことを真剣に考えたら
自然と叱ることもできると思うので、優しいお兄
さん、お姉さんを卒業して「先生」になりたいです。
- ③今日のこの講座を受けて本当によかったと思いま
した。はきはきとしていて話もおもしろくて、子
どものことを思っているのがとても伝わってきて、
〇〇先生のような先生になりたいと思いが強くわ
きました。どのような子どもに育てほしいか、ど
のような先生でいたいかをきちんと持った先生に
なりたいたいと思いました。
- ③自分の教育理念がだんだん固まるのを感じました。
優しくて厳しい先生になります。
- ④自分自身のめざす教師像について、より明確にす
ることができました。今日のお話をきいて、自分
の理想の教師像について考えを深め、理念をしっ
かりと持って、教師を目指していきたいです。

- ④私が教員になったときに、直面するであろうこと
を、身近に考えることができました。
- ⑤ICTというものが何なのか全くわからず今日参
加したのですが、とても便利で授業をより効果的
にするものだということを実感しました。模擬授
業をすることで、他の人の考え方やICTの使い
方を知ることができ、参考になりました。私は養
護教諭なので、保健指導に生かせると思いました。
- ⑤初めて実物投写機にさわって、〇〇先生のお話をき
いて、ICTを難しく考えずに子どもがわかりやす
い授業をするためのものだと考え、気軽に使っ
ていきたいと思いました。

IV 受講生の所属

岡山大学教師教育開発センターは、全学組織であり、
「教師力養成講座」には、表4のように教育学部以外
の学部の学生も参加している。教育学部以外の学生
の参加者数は、次のようになっている。

- ◇2009年 2% 4人
- ◇2010年 9% 27人
- ◇2011年 23% 41人
- ◇2012年 19% 22人
- ◇2013年 8% 33人
- ◇2014年 9% 20人（第5回まで）

参加学生数は、年により、回により差が見られる。
開催の日や時間など十分には対応できにくいことも
あるが、広報などをさらに充実していきたい。

表4 年度別学生の所属一覧

2014年度		教育学部							課程認定学部等										大学院					総計	
所属	学校教育教員養成課程							卒業生	合計	文学部	法学部	経済学部	理学部	工学部	環境理工学部	農学部	マッピングプログラムコース	卒業生	合計	教育学部 研究科	【文系】 研究科	【理系】 研究科	修了生		合計
	小学校教育	中学校教育	特別支援教育	幼児教育	養護教諭養成課程	養護教諭特別支援教育特別専攻科	特別専攻科																		
(1)	15	8	2	0	0	0	1	0	26	1	0	0	0	0	0	2	0	0	3	6	0	1	0	7	36
(2)	6	6	1	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	4	0	1	0	5	20
(3)	47	21	1	0	9	6	0	84	1	0	0	0	0	0	0	2	0	3	2	1	2	0	5	92	
(4)	16	6	0	0	2	1	0	25	1	0	0	0	0	0	0	2	0	3	4	0	2	0	6	34	
(5)	15	4	6	0	3	0	0	28	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2	0	1	0	3	32	
合計	99	45	10	0	14	8	0	176	3	0	0	1	0	0	2	6	0	12	18	1	7	0	26	214	
%	46.3	21.0	4.7	-	6.5	3.7	-	82.2	1.4	-	-	0.5	-	-	0.9	2.8	-	5.6	8.4	0.5	3.3	-	12.1	100.0	

※第6回は27年1月14日に、第7回は27年2月18日に開催予定

2013年度		教育学部							課程認定学部等										大学院					総計	
所属	学校教育教員養成課程							卒業生	合計	文学部	法学部	経済学部	理学部	工学部	環境理工学部	農学部	マッピングプログラムコース	卒業生	合計	教育学部 研究科	【文系】 研究科	【理系】 研究科	修了生		合計
	小学校教育	中学校教育	特別支援教育	幼児教育	養護教諭養成課程	養護教諭特別支援教育特別専攻科	特別専攻科																		
(1)	50	27	8	0	16	0	0	101	3	0	0	3	0	0	0	1	0	7	10	0	1	0	1	119	
(2)	30	10	2	0	2	0	1	45	3	0	0	3	0	0	0	0	0	6	3	0	1	0	4	55	
(3)	25	15	2	0	14	1	0	57	4	0	0	1	0	0	0	0	0	5	4	0	2	0	6	68	
(4)	29	12	8	0	13	0	0	62	1	0	0	1	1	0	0	0	0	3	4	0	3	0	7	72	
(5)	20	3	1	0	1	0	0	25	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2	2	0	1	0	3	30	
(6)	38	2	2	0	1	0	0	43	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	1	0	4	48	
(7)	48	19	4	0	8	0	0	79	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	3	0	3	86	
合計	240	88	27	0	55	1	1	412	17	0	0	8	2	0	0	1	0	28	26	0	12	0	38	478	
%	50.2	18.4	5.6	-	11.5	0.2	0.2	86.2	3.6	-	-	1.7	0.4	-	-	0.2	-	5.9	5.4	-	2.5	-	7.9	100.0	

2012年度

所属	教育学部								課程認定学部等								大学院					総計		
	学校教育教員養成課程				養護教諭養成課程	特別支援教育特別専攻科	卒業生	合計	文学部	法学部	経済学部	理学部	工学部	環境理工学部	農学部	マッピングプログラムコース	卒業生	合計	教育学研究科	【文系】研究科	【理系】研究科		修了生	合計
	小学校教育	中学校教育	障害児教育	幼児教育																				
(1)	4	4	2	0	1	0	0	11	1	0	0	2	0	0	0	0	0	3	7	1	1	0	9	23
(2)	19	4	1	0	2	0	0	26	2	0	0	2	0	0	0	0	0	4	3	0	0	0	3	33
(3)	17	1	1	0	0	1	0	20	3	0	0	2	0	0	0	0	0	5	0	0	1	0	1	26
(4)	5	8	0	0	0	0	0	13	1	0	0	3	0	0	0	0	0	4	0	0	1	0	1	18
(5)	12	1	1	0	1	0	0	15	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2	18
合計	57	18	5	0	4	1	0	85	8	0	0	9	0	0	0	0	0	17	11	1	4	0	16	118
%	48.3	15.3	4.2	-	3.4	0.8	-	72.0	6.8	-	-	7.6	-	-	-	-	-	14.4	9.3	0.8	3.4	-	13.6	100.0

2011年度

所属	教育学部								課程認定学部等								大学院					総計		
	学校教育教員養成課程				養護教諭養成課程	特別支援教育特別専攻科	卒業生	合計	文学部	法学部	経済学部	理学部	工学部	環境理工学部	農学部	マッピングプログラムコース	卒業生	合計	教育学研究科	【文系】研究科	【理系】研究科		修了生	合計
	小学校教育	中学校教育	障害児教育	幼児教育																				
(1)	18	5	3	0	0	0	0	26	1	0	0	13	0	0	0	0	0	14	2	0	0	0	2	42
(2)	8	6	5	0	0	0	0	19	0	0	0	6	0	0	0	0	0	6	4	0	0	0	4	29
(3)	12	10	7	0	0	0	0	29	0	0	0	7	0	0	1	0	0	8	3	0	0	0	3	40
(4)	16	4	0	0	0	0	0	20	1	0	0	4	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	25
(5)	7	1	4	2	0	0	0	14	3	0	0	1	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	18
(6)	12	4	3	0	2	0	0	21	2	0	0	2	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	25
合計	73	30	22	2	2	0	0	129	7	0	0	33	0	0	1	0	0	41	9	0	0	0	9	179
%	40.8	16.8	12.3	1.1	1.1	-	-	72.1	3.9	-	-	18.4	-	-	0.6	-	-	22.9	5.0	-	-	-	5.0	100.0

2010年度

所属	教育学部								課程認定学部等								大学院					総計		
	学校教育教員養成課程				養護教諭養成課程	特別支援教育特別専攻科	卒業生	合計	文学部	法学部	経済学部	理学部	工学部	環境理工学部	農学部	マッピングプログラムコース	卒業生	合計	教育学研究科	【文系】研究科	【理系】研究科		修了生	合計
	小学校教育	中学校教育	障害児教育	幼児教育																				
(1)	44	11	0	0	0	0	0	55	2	0	0	0	0	1	0	1	0	4	1	0	0	0	1	60
(2)	51	1	2	0	0	0	0	54	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0	3	58
(3)	25	2	0	0	0	0	0	27	2	0	0	2	0	1	0	0	0	5	3	0	0	0	3	35
(4)	19	0	0	0	0	0	0	19	3	0	0	1	0	0	0	0	0	4	1	0	0	0	1	24
(5)	17	3	0	0	0	0	0	20	0	0	0	8	3	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	31
(6)	42	11	3	0	16	0	0	72	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	74
合計	198	28	5	0	16	0	0	247	8	0	0	13	3	2	0	1	0	27	8	0	0	0	8	282
%	70.2	9.9	1.8	-	5.7	-	-	87.6	2.8	-	-	4.6	1.1	0.7	-	0.4	-	9.6	2.8	-	-	-	2.8	100.0

2009年度

所属	教育学部								課程認定学部等								大学院					総計		
	学校教育教員養成課程				養護教諭養成課程	特別支援教育特別専攻科	卒業生	合計	文学部	法学部	経済学部	理学部	工学部	環境理工学部	農学部	マッピングプログラムコース	卒業生	合計	教育学研究科	【文系】研究科	【理系】研究科		修了生	合計
	小学校教育	中学校教育	障害児教育	幼児教育																				
(1)	16	5	7	0	0	0	0	28	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	7	0	0	0	7	36
(2)	48	3	8	0	4	1	0	64	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	3	0	0	0	3	68
(3)	47	15	6	0	3	0	0	71	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2	3	0	0	0	3	76
(4)	14	7	3	0	6	4	0	34	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	34
(5)	8	13	1	0	0	0	0	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	23
(6)	22	6	3	0	6	0	0	37	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	37
合計	155	49	28	0	19	5	0	256	0	0	0	2	0	0	2	0	0	4	14	0	0	0	14	274
%	56.6	17.9	10.2	-	6.9	1.8	-	93.4	-	-	-	0.7	-	-	0.7	-	-	1.5	5.1	-	-	-	5.1	100.0

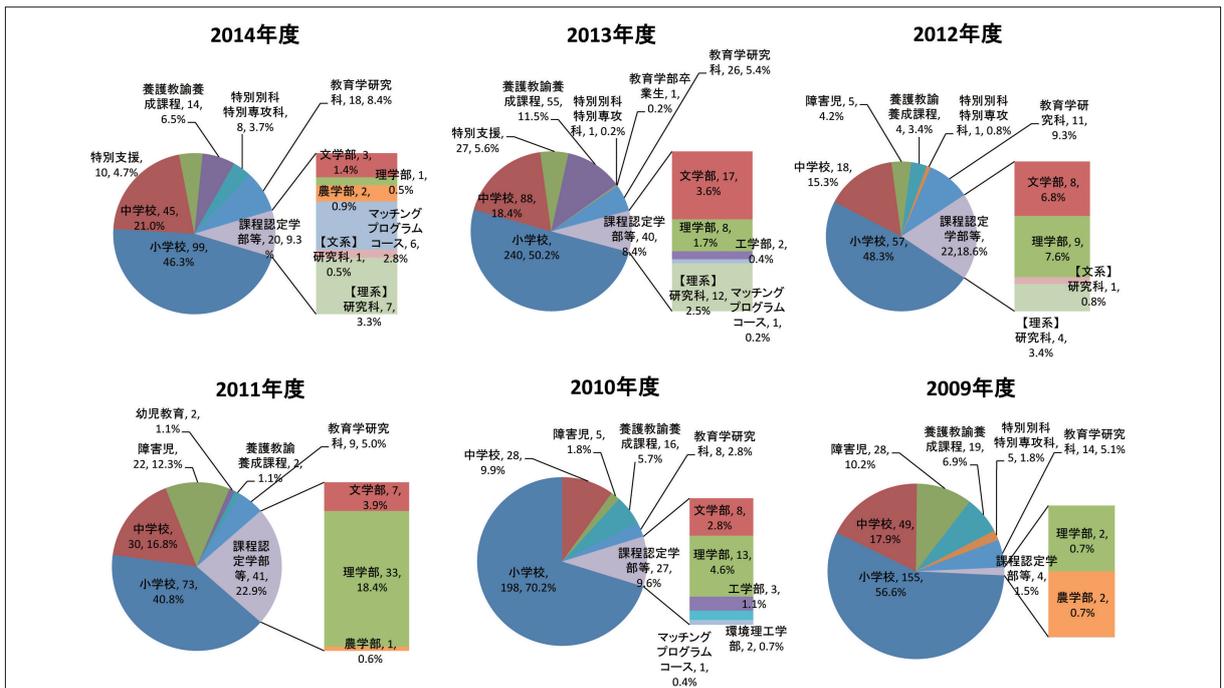


図3 受講者内訳グラフ

V まとめ

1 成果と課題

教育現場にはいろいろな課題がある。そして、その課題にしっかりと向き合い、確かに子どもを成長させている教師がおり、子どもが充実した生活を送っている学校が確かにある。そのことを知っていることは、これから教師を目指す学生にとって、自分が目指す子どもを育て、目指す教師になっていくために前進する大きな力となる。本講座に参加した学生の満足度は高く、複数回参加している学生が多い。その点から、学生のニーズにあった運営ができていると考えている。学生の声を大切にして、引き続き本講座の充実に取り組んでいきたい。

一方、次年度に向けての運営上の課題として依然として残ることもある。

○講座の開催時期と広報

今年度の講座は、5月～8月に4回、12月～2月に3回と、前半と後半に分けて計7回の開催をした。計画としては、7回の講座とも4年生の学生を受講対象の中心においていた。しかし、後半の講座への4年生の参加は決して多くなかった。教員採用試験を終えた4年生は、卒業研究への取り組みに重点を移していく。また、この講座の開催情報を入手するきっかけとして一番多いのが、「教職相談室での情報」であるが、後半には4年生が教職相談室を訪れる機会が減ってしまう。もちろん4年生の参加も大切にしていきたいが、後半からは3年生にも積極的に声をかけたい。「12月から3年生を対象にして講座を始め、4年生の8月までの講座を一つのまとまりとして開催する」という計画も検討している。

どんな計画を進めるにしても、鍵となるのは学生への広報である。確実に情報を伝えるためにも、さらなる工夫が必要である。

○教育学部以外の課程認定学部学生の参加の促進

8学部の学生に本講座の情報を確実に伝えるのは、それほど簡単ではない。現在行っているのは、「各学部掲示板」「教職相談室での直接の声かけ」「教師教育開発センターホームページ」「岡大教職ナビの情報」等である。この中で、一番有効なのは、「教職相談室での直接の声かけ」であるが、これには「相談室に来室する者」という前提がつく。もう一つ有効にはたしているのが「友人からの口コミ情報」である。さらなる一工夫が必要である。

○講座に参加できなかった学生への対応

教職を目指す学生には、教育実習を始め多くの履修科目がある。講座を設定した日に重なることもある。教員を目指す学生が一番多く所属している教育学部の時間割確認はした上で、期日の設定はしているが、それでも重なることがある。他学部ではなおのことであろう。

これまでの講座の内容については、講師の先生のご厚意によりDVDとして学生に視聴できるようにしている。これをさらに活用したい。

2 新たな視点から

岡山大学では、教育学部を含め8学部が教職課程認定を受けており、毎年400名を超える学生が教員免許を取得している。そうした学生に実践的指導力を確かに身につけさせるために、教育実習や体験的授業科目を工夫し取り組んでいる。岡山大学では、「学習指導力」「生徒指導力」「コーディネート力」「マネジメント力」をバランスよく身につけることが「教育実践力」とであると描いている。これらの力を育成するために教育現場で十分な体験を行うことは、時間的にも限界がある。「教師力養成講座」は、それを補足する一つの取り組みとなっていると考える。しかし、自主参加の講座である「教師力養成講座」には、まだまだ工夫の余地がある。

現在の運営は、教職相談室が中心になって単年度ごとに講座開催に向けてテーマ設定や講師選定を進めている。岡山大学から教師としての人生をスタートする学生により確かな実践的指導力を身につけさせるためには、長期的な視野も必要となる。教育委員会や学校とのより有効な連携の在り方、学内における授業化への移行の可能性などの視点ももちながら、本講座の在り方を探っていきたい。

本年度は、文部科学省の調査研究事業を受け、類似した講座を開催している大学等への訪問調査、講座参加学生に対しての本講座の運営に関するアンケート調査等を進めている。また、試行的な試みとして、当センター理数系教員(CST)養成事業部門と共同企画という形で11月に特別講座も開催した。

VI 終わりに

教師力養成講座も6年目を迎えたが、学校現場で活躍する教員の姿や熱い思いは、学生に確かに届いていることを感じている。本講座が、学校現場に出て自分の力を発揮するための一助となれば、うれしい限りである。

本年度も、岡山県教育委員会、岡山市教育委員会のご協力をいただき、7回の講座を実施することができた。また、高塚センター長を始めとした教師教育開発センターの諸先生方・事務局スタッフの方々からもたくさんのご助言とご支援をいただいた。

関係の皆様へ、心から感謝申し上げます。

参考・引用文献

- 「平成25年度公立学校教員採用試験の実施状について」(文部科学省)
- 「高度な専門性と実践的な指導を有する教師育成プログラム『教師力養成講座』の開発(5)」(2014岡山大学教師教育センター紀要第4号)

Outline of "A Training Course to Cultivate the Abilities Required for Teachers - Academic year 2014"

To Cultivate the Practical Leadership Required for Teachers

Mikio BUTO^{*1}, Kiyoshi OGAWA^{*1}, Seitaro KOBAYASHI^{*1}

"A Training Course to Cultivate the Abilities Required for Teachers - Academic year 2014", as the extracurricular course, we planned to give 4 lectures to the students by the end of August, and 3 more from December to February. We assume that, by giving specific examples of the efficient approaches to the problems worrying teachers, we can cultivate their practical leadership, stimulate them to go into teaching and get rid of their anxiety in advance effectively. For 6 years since 2009, we have been referring the number of attendance and the answers of the questionnaires in order to consider appropriate themes and the lecturers for the course. We summarize the course this school year and show the progress of our management and plan for the future.

Keywords : the specific examples of the efficient approach to the problems worrying teachers,
developing the practical leadership skills, the progress of our management plan for the future

※1 Center for Teacher Education and Development, Okayama University
